

令和2年度 ESD 推進校 実践のまとめ



聖ヶ丘中学校



連光寺小学校



聖ヶ丘小学校



聖ヶ丘中学校区



令和2・3年度 ESD推進校 取組概要



1 取組方針

小学校は今年度より、中学校は令和3年度より新学習指導要領が全面実施される。その前文にも明記されている「持続可能な社会の創り手」となる児童・生徒を育成するために小学校から中学校までの連続した9年間の義務教育において、発達段階に即した ESD の取り組みを通して、効果的に3校が共通して求める資質・能力を育む。

2 取組設定の理由

ESD を通じて身に付けさせたい資質・能力を小中学校で統一させた。それによって、9年間の義務教育における ESD の取り組みでのゴールが明確になると考えた。また、ESD を通じて身に付けさせたい資質・能力を統一させることで、3校の取り組む内容に連続性がなかったとしても目指す資質・能力は同じであるから、小学校1年生から中学校3年生まで、各学年の発達段階に応じた課題設定・取り組みが可能であり、また連光寺小学校、聖ヶ丘小学校、聖ヶ丘中学校それぞれがこれまでの長い歴史の中で培ってきた学校独自の特性等も生かしつつ、効果的に児童・生徒に身に付けさせたい資質・能力を育むことができると考えた。

3 ESDを通して育成する資質・能力

- 【知識・技能】情報を取得し活用する能力
- 【意思・態度】環境や社会に関心を持ち、意欲的・主体的に取り組む態度
- 【探究する力】コミュニケーション能力（伝え合う表現力）
- 【思考力】内省的な思考力（考えを深める力）

4 実践のポイント

【多摩市立聖ヶ丘中学校】

・ジャパンアートマイルが主催するアートマイル国際協働学習プロジェクトを通して、SDGsについて調べたり、深く考えたりする。また、海外校との意見交換をする上で、コミュニケーション能力の育成を図る。（各学年の総合的な学習の時間）

・ブラインドサッカーや高齢者疑似体験を通して、世の中の人々が困っていることに気付いたり、自分たちができることについて考えたりすることができるようになる。（第2学年の総合的な学習の時間）

【多摩市立連光寺小学校】

自分たちの未来を考える際、SDGsについて調べたり、エネルギー問題について考えたりする。日本の発電の抱える課題や改善点など、話し合いを通して見いだす。他の学校との交流や生活・総合発表会を通して、未来に必要な発電に対しての考えを深める。（第6学年の総合的な学習の時間）

【多摩市立聖ヶ丘小学校】

聖ヶ丘を住み続けたい町にするために自分たちにできることを考え、実践することを通して、地域の一員として積極的に社会に参画しようとする態度を養う。（第6学年の総合的な学習の時間）

1 単元名(教科・領域)・学年

アートマイル国際協働学習プロジェクト
(総合的な学習の時間) 第2 学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

- コミュニケーション能力
- 他者と協力する態度



3 単元の目標

- (1) 新型コロナウイルス感染症の拡大により、世界全体に不安や恐怖が広がる中、世界の子どもたちがつながり、支え合う場を作る。
(健康福祉・パートナーシップ)
- (2) これまでの近隣の都立多摩桜の丘学園との交流を生きしながら、今年度も障害のある生徒と本校の生徒が協働で絵を描くことを通じて、共生社会の実現を目指す。(福祉)



4 単元計画の概要【全14時間】

- (1) アートマイル国際協働学習プロジェクトの相手校との交流目的での英語で自己・自校紹介



- (2) SDGsの目標3、12、13の調べ学習と高齢者疑似体験や車いす体験学習、ブラインドサッカー体験



- (3) 2年前期学級委員と2年生徒会役員による、SDGsの目標3、12、13の自分たちの国の課題の話し合いとエストニアの生徒とのビデオ通話



- (4) 2年学級委員と生徒会役員と美術部を中心に、全学年の生徒とエストニアとの協働で絵の作成



5 授業の紹介【今何ができるかを考える 第3時】

(1) 本時の目標

- ア SDGsがどういうものかを学び、世界の状況を知る。
- イ 自分たちが調べたことや体験を通して、身近なことでできるものは何かを考える。

(2) 授業の展開

導入

学級全体で SDGsとは何か?を学ぶ

1

展開

① 高齢者疑似体験を通して、自分たちが何ができるかを考え、ワークシートにまとめる。

2

② 車いす体験を通して、自分たちとの目線の違いを理解しながら、自分たちが車いすユーザーの人に手助けできるか考える。

3

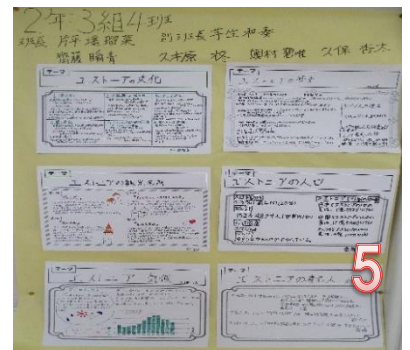
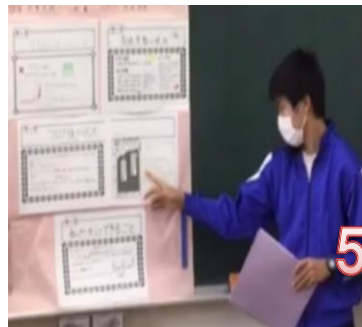
③ SDGsの目標3、12、13の調べ学習を班ごとに行い、考えを深める。コロナ禍で、今までどのように変化してきたかを話し

4

まとめ

各班の発表を聞き、自分ができることをまとめる。

5



6 本単元を通して得られた成果と課題

□ 児童・生徒の学習の評価(意見・感想等)

高齢者・車いす体験から

- ・体験した時に、何も持っていないのに、階段を下りたり昇ったりすることがつらかった。でも、普段荷物があるから、さらにつらと思った。だから、高齢者の人がいたら、荷物を持ってあげたりすることができると思った。
- ・買い物に行ったときなどに、車いすの人を見かけたら、声をかけようと思う。立っている人と車いすの人とでは、見えている世界が違うことを学んだ。

発表より

- ・食品ロスを削減するために、必要な分だけ購入したり、食べ残しをしつらないようにしたいと思った。
- ・公共交通機関を使って、なるべく地球温暖化にならないように気を付けたい。
- ・常にエコバッグを使って、無駄なプラスチックは増やさないようにしたい。

実際に体験することで、大変さが分かり、自分が何をすべきなのかが具体的に分かった。また、街でも様々な人に注目することで、いろいろな手助けができることと理解することができた。

(2) 課題

コロナ禍のため、多摩桜の丘学園の生徒との協働での作業ができなかった。様々な取り組みも変更せざる負えない状況になってしまったのは、大変残念な結果である。

1 単元名(教科・領域)・学年

未来に優しいエネルギー(総合的な学習の時間)
第6学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

- 学びに向かう力、人間性
- 知識及び技能
- 思考力・判断力・表現力

3 単元の目標

地球温暖化や世界の課題に関心を持ち、仲間と協働しながら探究活動を行い、よりよい社会をつくるためにできることを考え、地域へ発信しながら行動する。

4 単元計画の概要【全70時間】

(1) 未来に優しいエネルギーを考えていく活動の始まりとして、校長先生から地球温暖化についての話を聞く。



(2) 環境問題を中心にして、世界が抱える問題について調べ学習を行う。



(3) SDGsの目標7、12を中心にエネルギー作りについて考える。どのように電気が作られているのかを調べ、実験し、まとめる。発表会を通して、未来に必要な発電を自分なりの根拠をもって考える。



(4) ポートフォリオを活用し、一年間の活動を振り返る。一番伝えたい内容をまとめ、生活・総合発表会で他学年に伝えたり、他の学校の児童と交流したりする。



5 授業の紹介【未来に必要な発電を考えよう 第30時】

(1) 本時の目標

自分や仲間のポートフォリオを振り返りながら、未来にあるべき発電方法について根拠をもって考え、これからの学習への意欲を高める。

(2) 授業の展開

導入	学年全体で、地球温暖化について学び、未来の地球について考える。	1
展開	①SDGsを調べる。世界が抱える課題に注目してワークシート・画用紙にまとめ、発表する。	2
	②SDGsの目標7、12に注目して、エネルギー問題について調べ学習を進め、必要な情報を集める。	3
	③ポートフォリオとしてグループで協力して模造紙に書き表し、その内容を見て回る。最後に未来に必要なと思う発電を考える。	4
まとめ	1年間活動してきたポートフォリオを活用し、生活・総合発表会で自分の考えを伝え、まとめとする。	5



6 本単元を通して得られた成果と課題

□児童・生徒の学習の評価(意見・感想等)

- ・日本で火力発電がこんなに多いとは思っていなかった。
- ・電気を作ることがこんなに大変だとは思わなかった。
- ・SDGsはどの目標も関わっていそう。一つだけ解決すればいいというものではないということが分かった。

(1) 成果

ポートフォリオを活用することで、自分の学習と比較したり、関連付けたりすることができた。世界中の人が目標に向かって努力しなくてはならないという意識が高まった。特にエネルギー問題に関しては、再生可能エネルギーの必要性を訴える児童が増えた。

(2) 課題

学んだことを生かす場面の設定が難しかった。個人の努力が環境保全にしっかりとつながるという内容を共通理解していく必要がある。

1 単元名(教科・領域)・学年

「未来の聖ヶ丘」(総合的な学習の時間)
第6学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

- 環境や社会に関心を持ち、意欲的・主体的に取り組む態度
- コミュニケーション能力(伝え合う表現力)

3 単元の目標

- (1) 自分たちが生活する聖ヶ丘の特徴やよさを調べることを通して、多摩市や聖ヶ丘地区に対する様々な取り組みや地域の方々の思いを捉え、自分も地域を支える一員であることを理解する。
- (2) 聖ヶ丘を住み続けたい町にするために自分たちにできることを考え、実践することを通して、地域の一員として積極的に社会に参画しようとする態度を養う。
- (3) 聖ヶ丘小学校の金管バンドに対する地域の期待や思いを知り、それに応えるためにどうするかを考えながら活動することを通して、自分たちの活動が地域の活性化につながることを理解する。



4 単元計画の概要【全70時間】

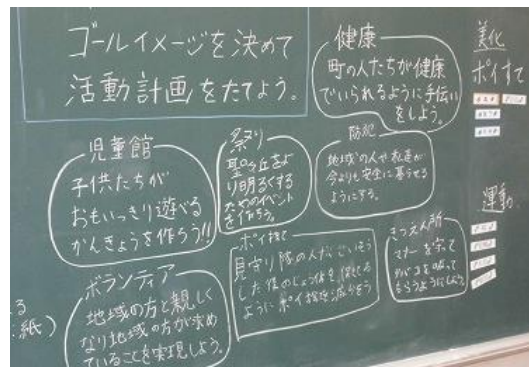
- (1) 金管バンドに対する思いやイメージをイメージマップに書き出すことで、バンド活動の現状を共有する。

成果	課題	改善案
楽器が吹けるようになった	目標がない	個人的な目標を作ってみる
他の楽器にも技術を引用できる	中途半端になる	みんなでアドバイスをし合い改善していく!
達成感が味わえる	みんなで集まって練習する事が少ない	
この時期に唯一クラス全体でできる事		

演奏活動、保護者や地域の方への発表を通して、金管バンドに対する地域の期待や思いに気付く。



- (2) 自分たちが住む聖ヶ丘地域について見直すことを通して、調べるテーマを決め、課題を解決するための計画を立てる。



- (3) 未来の聖ヶ丘を住み続けたい町にするための自分たちの考えをまとめ、他学年や保護者、地域の方に提案する。



5 授業の紹介【地域のことを見直そう 15時間】

(1)本単元の目標

自分たちが生活する聖ヶ丘の特徴やよさを調べることを通して、多摩市や聖ヶ丘地区に対する様々な取り組みや地域の方々の思いを捉え、自分も地域を支える一員であることを理解する。

(2)授業の展開

導入

聖ヶ丘のよさや課題を出し合いながら、自分たちが住む地域について見つめ直すことを通して、調べるテーマを決め、課題を解決するための計画を立てる。

1

展開

①環境、安全、福祉、歴史などの様々な視点や子供、大人、高齢者などの様々な立場から聖ヶ丘についての情報を集める。

2

②自分たちで調べた情報を整理・分析し、様々な立場や視点から見た聖ヶ丘について考える。

3

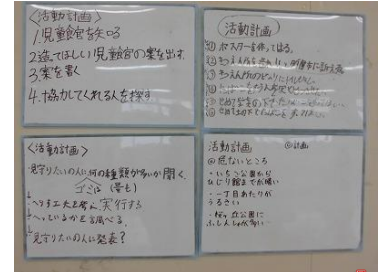
③学年内で発表を行い、聖ヶ丘についての理解を共有する。

4

まとめ

聖ヶ丘の住みよい町づくりについて考え、自分たちにできることをワークシートにまとめる。

5



1



3



4

6 本単元を通して得られた成果と課題

□児童・生徒の学習の評価(意見・感想等)

- ・私たちが地域のためにみんなでできることは、バンドを演奏して笑顔になってもらうことではないかと思うようになりました。
- ・聖小の金管バンドには地域の活性化という意味があると胸を張って言い切れると思います。
- ・オンライン文化祭を通して、地域の方々と交流し、地域の方々が笑顔になっていたのを見て、とてもうれしかったです。また、笑顔の他にも元気や勇気を届けることができたと思います。

(1)成果

- ・地域について調べ、情報を整理・分析することで、聖ヶ丘の現状を自分事として捉えることができた。
- ・バンド活動が地域に喜ばれていることを知り、自己肯定感が高まった。

(2)課題

- ・コロナ禍で直接的な交流が限られ、地域との関わりを実感させることが難しかった。人と関わることの重要性を再確認した。



ESD推進校の成果と課題

1 各学校の成果と課題

□多摩市立聖ヶ丘中学校

【成果】

- インターネットで情報収集し、必要な情報を取捨選択することができていた。
- 体験したことを基に、自分には何ができるかを深く考えさせることができた。
- 英語でのコミュニケーションのために、日本語での理解をより深くすることができた。

【課題】

- インターネットでのコミュニケーションではハード面の環境が整わず、うまくつながらないことがあった。また、時差の問題もあり、交流をする国に関して事前によく調査するとともに、事前に綿密な準備をしておく必要がある。
- 今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、実際に校外に出て体験する活動がほとんどできなかった。

□多摩市立連光寺小学校

【成果】

- インターネットで自分に必要な情報を取捨選択して活用することができた。
- 活動の記録をポートフォリオとして蓄積し、次の活動の見通しをもったり、振り返ったりする場面で活用することができた。ポートフォリオを活用する場面では、子供たちの考えをさらに深めることができた。また、タブレットに保存するeポートフォリオも活用することができた。
- 環境に対する意識の高まりが見られた。

【課題】

- 発電の実験をする際、教材・教具がそろわず、順番待ちをし、活動する場面があった。(水力発電グループを多摩川に連れて行ったが、時間がかかりすぎた。)
- 環境保全の意識は高まったが、発信する場面が少なかった。

□聖ヶ丘小学校

【成果】

- 必要な情報を得るために、地域を調べたり、地域の方にインタビューしたりするなど、自ら行動することができた。
- クラスで情報を共有したり、お互いの考えを伝え合ったりすることで、考えを深めることができた。
- 自身の活動を振り返り、その価値を確認することで、自己肯定感が高まった。

【課題】

- コロナ禍での学習となり、地域との関わりをもつことが難しかった。
- 地域の行事が次々と中止になり、地域に貢献するために続けてきたバンド活動が制限され、演奏する場がなくなってしまった。



2 中学校区の取り組みの成果と課題

【成果】

- 聖ヶ丘中学校区における ESD で育成したい4つの資質・能力について、3校で共有することができた。
- 地域の特性を生かした各校の取り組みを理解することができた。
- 9年間の義務教育における目指すべき児童像、生徒像を共有することができた。

【課題】

- ESD を通して育成する4つの資質・能力をどの段階で、どの程度育成するかについて、3校での共有が十分ではなかった。
- 4つの資質・能力について、児童が振り返るための評価規準（ルーブリック）を活用することが不十分であった。
- 今後、3校の児童生徒が学んだことを発信し合う機会をつくり、直接関わるができる機会をもつことができるとよい。
- 学校ごとにどんな ESD の取り組みをしているのか、教職員同士で情報共有する必要がある。

3 次年度以降の取り組みについて

○小中連携したESDの推進

- ・小中連携事業における授業参観を通じた、各校の ESD の取り組みへの理解を促進する。
- ・評価規準(ルーブリック)を共通理解し、活用していく。
- ・中学校体験、中学校説明会において、小学校からのつながりが見えるような活動を考えていく。
- ・小中連携事業における防災学習を持続可能な取り組みに位置付ける。
- ・児童生徒同士の ESD を通じた交流・発信として、児童会と生徒会から始め、タブレット等活用して行い、その後児童生徒全体に広めていく。
- ・令和3年度の教育課程の補助資料として作成した「ESDを通して育成する資質・能力の段階表」に添って、各校の各学年が具体的取組を展開していく。

○SDGsを踏まえたESDの推進

- ・SDGsの理解についても、共通理解を図っていく。
- ・各教科の授業、特別の教科道徳、総合的な学習の時間、学校行事、学年行事、特別活動といったあらゆる学校での学びの場面で、SDGsの17の目標を掲げ、学習する。

○「多摩市子どもみらい会議」の充実

- ・「聖小が考える理想のまち + 連光寺小が考える未来=聖中が考える未来の多摩市」のような9年間のつながりが見える発表を行う。
- ・小中学生の頃から「多摩市を将来どんなまちにしていきたいのか」考え、この会議を続けていくことに意義がある。実際に議論し合うことで新たな発想や取り組みへと発展させていく。